

## 令和3年 大阪府立摂津支援学校 第2回 学校運営協議会 実施報告書

1. 日 時 令和3年10月19日(火) 10:00~12:00

2. 場 所 本校 会議室(中高等部棟2階)

3. 出席者 <学校協議会委員>

西野 陽一(元大阪工業大学客員教授) 大矢 優子(摂津市教育委員会教育委員)

松元 広美((株)ダイキンサンライズ摂津総務課長)

熊谷 達也(茨木・摂津障害者就業・生活支援センター所長)

中井 啓夫(高槻市柱本自治会副会長) 荒井 千羽(本校保護者)

<摂津支援学校>

校長(藤井) 教頭(岩井)(小野) 事務長(與賀田) 首席(坂部・平水)

首席兼教務部長(日高) 首席兼高等部主事(三牧) 部主事(浅井・落合)

<傍聴者> 2名(本校保護者)

4. 年間テーマ

「子どもにとって『わかる授業』『いい授業』の追求をめざして」

主な内容 ①今年度の取り組みの進捗状況について ②学校教育自己診断について

③授業動画視聴

5. 説明、質問、協議内容等

(1) はじめに [進行: 三牧] [記録: 日高]

・配付資料確認

・校長あいさつ

昨年はコロナの為、書面開催が主となった。今年度は2回とも集合開催できている。学校行事でも校外学習や修学旅行を実施できており、徐々に通常の活動ができ始めている。PCR検査を受けた児童生徒や教職員もいるが、陰性がほとんどであり、他校よりコロナウイルス感染症による臨時休業が少なく済んでいる。今後も気を付けながら教育活動を実施、家庭とも協力して進めていきたい。ちなみに先日、スポーツフェスタがあった。陸上競技を中心に本校の児童生徒が頑張っていた。このように支援学校同士の交流も戻りつつある。

本日は短い時間だが、よろしくお願ひします。

(2) 学校より報告及び協議 [進行: 西野会長]

○今年度の取り組みの進捗状況について

・校長より(資料⑤)に沿って説明)

資料⑤は、学校経営計画に記載されている中期目標や小項目に対してコメントしたものである。

[1、安心・安全の教育を進める学校]

(1) 人権教育の充実(LGBT)

①-LGBT

外部講師を東京からお呼びして研修会をZoomで開催した。欠席者は後日DVDで視聴する

など、徹底して取組んでいる。というのも、本校の児童生徒あるいは教職員の中にも悩みを抱えている人がいるかもしれない大事な問題だからである。

①ー不適切指導

不適切指導チェックシートを用いている。「～したらダメ」「～しないと〇〇できないよ」のような否定的な言葉かけなど、児童生徒の関わり方について見直している。

(2)校内支援の活性化

①不登校児童生徒の数が非常に多い。校内支援体制も整備中である。高等部では卒業後のことも考えている。家に引き籠らず、地域との結びつきを確立できるように地道に取り組んでいる。この問題にはコーディネーターが中心となって取り組んでいる。成果にはまだ結びついていないが、続けていきたい。

②子ども家庭センター等と連携し、モニタリングやケース会議を実施している。

(3)危機管理体制の充実

①引き渡し訓練は、保護者にスムーズに引き渡すことができるようにする訓練。12月23日実施に向けて準備を進めている。

②大阪府の防災のコーディネーターから“2次避難場所の確保”という宿題が出されている。本校だけでは解決できない問題なので、地域と相談しなければならない。

③新型コロナウイルス感染症については、校内クラスターは起きていない。だが児童生徒が利用している放課後デイサービスでクラスターが頻発していた。体育館の空調設備が完成した。十分効果はある様子である。

④個人情報保護に関して、「情報セキュリティーポリシー」を改訂、誤配付防止を徹底。

⑤ヒヤリハットは、教訓としての意味合いがある。とくに今年度は行方不明が多く、その中でも中1が多い。内部進学生と外部入学生との人間関係などが原因の1つであるが、学年や学部教員で相談しながら対処している。

## [2、児童生徒にとって「わかる授業」「よい授業」を追求する学校]

(1)授業改善と授業力向上

①タブレット端末を小学部中学部の3分の2の児童生徒数分が配備済み。今年度末には残りの3分の1が配備され、1人1台になる。高等部でも順次配備予定である。

②全校教科会の強化を図っている。授業の情報交換や教材展示会を実施しており、先日も社会の展示教材を見た初任者が、それを生かした研究授業をしていた。効果が出ている。

③児童生徒にとって、見通しの取れる授業の展開。

④「主体的・対話的で深い学び」の観点での授業改善

⑤研究授業・公開授業の活性化

小中高の垣根を超えた授業改善への取り組みとして「教科研」活動に取り組んだ。授業の様子をビデオに録り、それを見ながら意見交換を行った。また教材展示会を初開催した。

(2)自立活動の時間の指導と充実

中学部では昨年度から特設の時間としての自立活動に取り組んでおり、その発表と研修が先日、近畿地区の研究部会として実施された。

### [3、地域で学び、地域とともに育つ学校]

#### (1) 卒業後を見据えた学習

- ①居住地校交流は10月より再開している。
- ②学校間交流は、ビデオ交流など新しい形式を模索しながら継続している。
- ③課外クラブ活動は、冬のサッカー大会やバスケットボール大会に向けて再開したい。
- ④高等部卒業生の適切な進路選択と決定、保護者への情報提供のため、企業実習や事業所説明会を実施している。
- ⑤連続性のあるキャリア教育の継続と発展。
- ⑥月1～2回ペースで外国人講師に来校してもらっている。ハロウィンの内容を扱うなど、児童生徒たちも興味をもって取り組んでいる。

#### (2) 地域に根ざした交流活動

- ①地域行事への参画 ⇒残念ながら1学期は地域の行事が中止になり参加できず。
- ②情報発信 ⇒地域情報「きらめき」を年間10号の予定で作成、配付している。

#### (3) 地域支援の充実

昨年度は51回だが、今年度は更に増えるかもしれない。

### [4、組織力の向上]

- ①組織の活性化 ⇒「育成支援チーム」を教育庁から派遣し、次のミドルリーダーを育成。
- ②ストレス度チェックは、今年度からメール形式になった。ストレス度が下がっていけばよいと思う。残業時間は全体的には年々減っている。
- ③校内の情報伝達経路の明確化
- ④ヒヤリハットの分析と活用を進めていく。
- ⑤「働き方改革」推進、一斉退庁日の定着 ⇒時間外勤務月80時間超の教員は1～2名。

### 質疑応答

- 委員 : ヒヤリハットについて、いじめや喧嘩、暴力行為は起きているのか。
- 教員 : いじめは発生していない。1人の生徒が、本当はみんなと遊びたいがうまく関わらず、周囲とトラブルになるケースがある。
- 委員 : (手出しを)受けている子が悩んだりしていないか。
- 教員 : それも含めて1つ1つ経験として人間関係を形成していくことができるように配慮、支援している。
- 校長 : 中1という学年では起きがちな事象である。今年度の場合、内部進学生は、小6では12名の集団であったが、中学部になって30名以上の集団になった。その中でトラブルが起きたり、言葉遣いが変わったりすることがある。しかし2、3年と学年が進行するにつれて解消され、落ち着いていくことが多い。「トラブルは新たな人間関係形成のステップ」と捉えている。教員も体当たりで指導に当たっている。
- 委員 : 国際理解教育について、他国にルーツのある児童生徒はいるか。また該当児童生徒への日本語の学習などには取り組んでいるのか。

教員 : 両親のどちらかが外国出身の家庭はあるが、日本語指導が必要な児童生徒はいない。  
校長 : 小学校や中学校のようにルーツに注目した取組みは支援学校ではあまりしていない。  
委員 : 外国出身の保護者の場合、連絡帳や配付プリント等について、担任が丁寧に対応している。

委員 : 不登校について、20歳になって（就業・生活支援センターに）相談に来たケースがある。「不登校だったが20歳の節目になったから来た」と言っていたが、職場体験実習3日目で挫折した。A型事業所を紹介すると1か月程続けることができたが、「10万円稼いだから」と辞めてしまった。別のケースでは「仕事は給料があるから行く、学校は行ってもお金貰えないから行かなかった」と言っていた。卒業後に学校に相談に来ることはあるか。

教員 : 卒業後、学校と全く連絡を絶つ家庭もあるし、福祉機関に相談している場合もある。不登校の生徒に対しては、ご家庭の考えや本人のペースに配慮しながら個別に対応している。

校長 : 在学中から学校だけでなく福祉と繋がらないといけない。それについては体制を整えている段階である。

委員 : 危機管理についてだが、外部からの侵入事案はあったか。

教員 : 今のところない。研修は毎年実施している。

#### ○学校教育自己診断について [説明：坂部]

- ・ 予めメール送付していたが、職員会議で承認されたのでそのまま実施している。
- ・ 今年度の学校教育自己診断アンケートは項目を見直した。

##### 7 3 観点について

1 7 “知的障がい支援学校”の文言を追加

3 2 (教職員のみ)会議関係の内容

追加 (教職員のみ)自己研鑽

追加 (教職員のみ)ヒヤリハット

委員からの3つの指摘があった。

- ・ 適正という漢字
- ・ 3 1 不適切指導チェックシートと内容が似通っているので削除の意味
- ・ 学校経営計画と学校教育自己診断アンケートのリンクが見えにくい  
→今後よりリンクできるように調整していく。

アンケート結果は、後日メール送付するのでご意見よろしく申し上げます。

#### 質疑応答

委員 : 3観点について保護者に説明したのか。わからないのではないか。

委員 : 担任が「不明な点があれば電話してください」と言ってくれているので、日常的に聞きやすい環境にあると思う。

委員 : 3観点のことも聞けるか。各担任が説明できるか。

校長 : 3観点は高等学校ならAやBと評価を出す。支援学校の場合は文章表記である。3観点の評価方法については現在検討中である。書き方についても研修をしていかなければならない。3観点については、また校長室だよりなどで周知する予定である。

- 委員 : 高等部でも生徒用アンケートは文字版とイラスト版を選ぶことができるのか。
- 教員 : 担任が生徒の様子に合わせて判断し、対応している。
- 委員 : 中学部ではとても丁寧に視覚支援をしてもらったが、高等部に入ってイラストなどの視覚支援が減ってしまった。年齢や学年に応じて支援を減らしていくことはわかるが、理解面に関しては本人の実態に応じた支援をしてほしい。

#### ○授業動画視聴 [説明：各部主事]

- 小学部
- ・朝の会で統一していることは「挨拶」「サイン」「進行表」「歌」などである。
  - ・終わりの会では下校方法をみんなで確認するようにしている。
  - ・道徳はルール学習の授業紹介
- 中学部
- ・終わりの会では感想を自分で言う生徒が多い。時間割と気持ちカードで発表する生徒もいる。
  - ・道徳は成長、いのちの授業の紹介
- 高等部
- ・朝の会、終わりの会では「挨拶の言葉」「社会で使う言葉」の練習を取り入れている。
  - ・終わりの会ではタブレット端末のアプリ等を利用して、一日の感想発表する生徒もいる。
  - ・道徳は食器の置き方、働く人の1日、自己紹介の方法の授業紹介

#### 質疑応答

- 委員 : いつも見るできない授業を見ることができてよかった。  
小学部→中学部のステップアップが大きいと感じた。
- 委員 : 小学校か支援学校か悩む家庭が多いが、このようなビデオを視聴すると、中学生や高校生になった姿を想像しやすくなると感じた。

#### (3) まとめ [進行：三牧]

校長：大阪府全体でハラスメント防止の取り組みをしている。悩んでいる児童生徒がいないか調査も行っている。調査結果は第三者機関がまとめている。福祉なども含めて、どんどん外部と学校が繋がっていく必要がある。貴重なご意見をありがとうございました。

#### (4) 事務局より連絡

三牧：今回は2月7日（月）に予定されています。

#### 【配付資料一覧】

- ① 次第                      ② 令和3年度 学校経営計画                      ③ 学校教育自己診断
- ④ 授業動画参考資料      ⑤ 「令和3年度学校経営計画」の進捗状況について